松田解子全詩集

未来社

松田解子全詩集

一九八五年　八月一五日第一刷発行
一九八五年一〇月二五日第二刷発行

定価　二五〇〇円

著　者　松田解子
発行者　西谷能雄
発行所　株式会社　未来社

東京都文京区小石川三―七―二
電話・〇三―八一四―五五二一
振替・東京七―八七三八五

本文印刷＝モリモト印刷
装本印刷＝形　成　社
製　本＝今泉誠文社

乱丁・落丁本はおとりかえいたします。

松田解子全詩集　目次

戦前の詩

乳房……一九二八・四
原始を恋う……一九二八・五
煤けた窓から……一九二八
坑内の娘……一九二八・一〇
母よ……一九二八・一〇
曲った首……一九二八・一二
右腕……一九三〇・一
海女……一九三〇・一
全女性進出行進曲……一九三〇・一
起つ日……一九三〇・一一
馘きられた父へ……一九三〇・一二
神様は奪う……一九三一・一
じっと坐っている赤禿山よ……一九三一・四
あのストは俺等のストじゃなかったか……一九三一・四
表現と時間について……一九三一・四
文芸公論……一三
文芸公論……一四
無産者新聞メーデー号……一五
戦　旗……一六
戦　旗……一九
創作時代……二一
詩　神……二三
詩　神……二五
女人芸術……二六
詩　神……二八
詩　神……三一
詩　神……三五
女人芸術……三八
詩　神……四二
日　記……五一

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

創造に対する渇仰を……一九三一・七
故意の抽象……一九三一・一〇
規律……一九三一・一一
みつめていた……一九三一・一二
父へ……一九三二・一
出かける者へ……一九三二・四
子どもに……一九三二・八
想い……一九三二・一〇
デスマスクに添えて……一九三三・一
執拗に腹這え……一九三三
労働者……一九三四・二
曳かれ行く人へ……一九三四・七
泣き声……一九三四・七
韮粥……一九三四・七
ふるさと……一九三四・九
うばわれたひとへ……一九三五・一
ザール人民投票……一九三五・三
辛抱づよいものへ……一九三五・八
日　記……五二
詩人時代……五四
日　記……五八
日　記……六〇
プロレタリア文学……六一
詩と人生……六三
ノート……六四
日本国民……六六
大衆の友……六八
ノート……七〇
詩　精　神……七一
詩　精　神……七二
現　実……七五
関西文学……七七
文学評論……七八
詩パンフレット第三輯「戦列」……八一
文学評論……八三
文学評論……八六

哀悼の歌……一九三五・八　先駆……八七
身の軽さ、欲望の深さ……一九三五・一一　太鼓……九〇
どよめきの中で……一九三五・一一　ノート……九一

戦中の詩

薊の花束……一九四〇・五　文化組織……九七
完全無欠なる諷刺詩人へ……九七
ねがい……一〇三
創造者……一〇四
小暗いみち……一〇五
舞踊の夕より……一〇六
思索の一……一〇七
思索の二……一〇七
思索の三……一〇八
夜が更けたが電車はあるだろうか、という友へ……一〇八
無題……一九四四　メモ……一〇九

太陽よ……一九四五・五　メモ……一一一
おっ母さん！……一九四五・五　メモ……一一三
麦……一九四五・五　日記……一一七

戦後の詩

夏雲よ……一九四五・八　日記……一二一
しずかな脈搏……一九四六・五　新婦人……一二二
Ⅰ　深夜の独白……一二二
Ⅱ　朝の賦……一二三
Ⅲ　昼狂記……一二四
Ⅳ　また、深夜……一二四
つくろいもの……一九四六・九　日記……一二五
詩書き女の夜言……一九四六・八　日記……一二六
苦汁……一九四七・八　日記……一二九
母ら……一九四七・九　山梨文化……一三〇
足うらの歌……一九四八・六　日記……一三一

住民登録……一九四八・一三　日記……一三四
祖国に　――「えんとつ」の仲間、Tさんへ――……一九四八・一三　日記……一三六
話すとき……一九四九・一　日記……一三八
七月の記録――新宿職安の仲間たちへ――……一九五〇・七　日記……一三九
あるロジック……一九五〇・七　日記……一四二
台風・グレース、ヘレースの姉妹へ……一九五〇・八　日記……一四三
そのひとびとの中へ……一九五〇・一二　日記……一四四
ふみ子へ……一九五一・三　日記……一四四
この八月の炎天に……一九五一・八　日記……一四八
誓い……一九五一・九　日記……一五二
実行……一九五一・九　日記……一五三
わかものがあつまった……一九五一・九　三田新聞……一五四
目……一九五二　メモ……一五七
メーデー連詩……一九五二・五　人権民報　人民文学　三田新聞　「一九五二年メーデー写真集」等に部分的に採録……一五八
Ⅰ　乙女へ……一五八
Ⅱ　小父さんへ……一六一
Ⅲ　パーヴェル……一六二
――サークルの仲間Hにはパーヴェルという綽名がついていた――

Ⅳ つつさきで――パーヴェル体験――……一六三
Ⅴ 母……一六四
Ⅵ 美……一六五
Ⅶ うたわずにいられない……一六六
Ⅷ けむり……一六七
Ⅸ おまえたちは殺した……一六七
時間について(A)……一九五二・一二 日記……一六八
時間について(B)……一九五二・一二 日記……一六九
つゆとそよかぜ……一九五三・五 日記……一七〇
朝鮮休戦――朝鮮のお母さんたちへ――……一九五三・六 アカハタ……一七一
よし、すべて、……一九五三 メモ……一七四
その火矢のもと……一九五三 メモ……一七五
わたしは呪う……一九五三・一二 日記……一七七
三百六十五日よ……一九五三・一二 日記……一七九
おのれへ――歳末賦――……一九五三・一二 日記……一八一
はたは風を吸って……一九五四・三 日記……一八二
――一九五四年三月一八日青山。無名戦士墓にて――
死の灰……一九五四・三 アカハタ……一八四
ハタくばりのみちすじに……一九五四・三 日記……一八五

峻峻にむかって若者らは……一九五四・八　三田新聞……一八七
朝鮮乙女のおどり……一九五五・三　新女性……一八九
凝視……一九五五・七　メモ……一九一
Mさんへ……一九五六・六　日記……一九二
甥へ……一九五七・六　日記……一九六
テーマはひきしぼられている……一九五八・三　松川通信……一九八
——松川事件対策協議会生まれる——
ねがい……一九五八・八　一九六〇年ルーマニア発行世界女流詩人選集に訳載……二〇一
高村建材——わけて建材労組のおっ母さんへ——……一九五九・八　メモ……二〇五
目盛——一九五九年八月一〇日　松川大行進成る——……一九五九・八　メモ……二〇九
全てい・中野——一九五九年メモ詩より——……一九五九・九　メモ……二一九
プラタナスのささやきから……一九五九・一一　メモ……二二五
——一九五九年一一月二八日メモ詩——
さしまわしの車で……一九六〇・二　メモ……二二九
生かすハンコと殺すハンコ……一九六〇・三　アカハタ……二三二
列——一九六〇年五月二六日大統一行動デーより——……一九六〇・五　アカハタ……二三五
ムシロ旗賛歌……一九六〇・六　メモ……二三七
誘い……一九六〇・六　メモ……二三八
救護班……一九六〇・六　メモ……二四四
傷——一九六〇年六月一五日夜のメモ詩——……一九六〇・六　メモ……二四五

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

六・二二――安保反対、第二〇次行動デー中野駅より――……一九六〇・六
大橋(たいきょう)に寄せて……一九六〇・七
鞍山にて(A)……一九六〇・八
鞍山にて(B)……一九六〇・八
忘れるな　この一つのことを……一九六〇・八
網走の獄にも……一九六一・一
帯広にて……一九六一・一
その二人は……一九六一・二
ある詩集の跋に代えて……一九六一・二
新しい一ページをひらくために……一九六一・六
――五・二五政暴法粉砕東京都民大会から――
焔　――或る朝、松川大行進参加のN家訪問の帰路に――……一九六一・九
足のうた……一九六二・一〇
どっしり・根を。――一・二六　横田――……一九六四・四
時間……一九六四・七
この党とともに……一九七二・六
牛のうた……一九八二・七
小マッターホルンにて……一九八二・七
オランダはわたしに……一九八二・八

アカハタ……二五一
メモ……二五四
メモ……二五五
メモ……二五七
メモ……二五九
メモ……二六〇
メモ……二六二
メモ……二六五
メモ……二六九
アカハタ……二七一
起点……二七四
起点……二七六
文化評論……二八〇
起点……二八五
赤旗……二八七
メモ……二八八
メモ……二九一
メモ……二九三

忘れまじ　サルビア……一九八二・八　メモ…二九五
紫苑の花……一九八四・八　メモ…二九六
盛り土の下に……一九八四・八　メモ…二九八
食器と切符……一九八四・八　メモ…三〇〇
墓石は……一九八四・一一　日記…三〇一
ある原風景……一九八五・一　日記…三〇三
亡びの土のふるさとへ……一九八五・四　日記…三〇六
あとがき……三〇九

装画・カット＝政岡悦子

戦前の詩

乳房

生れながらにプロ
生れながらに栄養不良
生れながらに父は留置場
だが、吾子よ
飢をうったえるお前の声に
私は新しい力を知る
お前の運命にしてお前の糧
今こそ復讐の意思にたぎるよ
干からびた二つの乳房は

―一九二八・四　文芸公論―

原始を恋う

音もなく大地が冷えて
寒空の広く拡がる時
腕のべ、髪をとかし
木枯(こがらし)の中にすっくと立った
女
原始の女、
疲れを知らぬ、輝きに満ちた瞳に
自然の冷酷を征服し、
最初の生命の創造に
大いなる喜悦を覚った女
そのかばねの上に
幾十世紀の文明が毒花を咲かせた、
今こそ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com